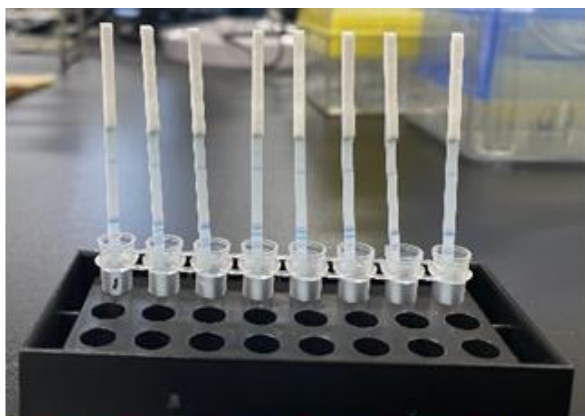


愛媛果研ニュース

No.41 令和5年9月



令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症の感染症上の取り扱いが2類相当から5類に移行されました。

令和元年に世界で初めての感染者が報告され、また、国内においても令和2年に感染者が確認されて以来、瞬く間に全国へと拡大し、以降3年以上もの長きにわたり、変異を繰り返す未知のウイルスとの戦いを強いられました。特に、誰もが経験したことの無い不安を抱える事態の中、数回以上にもわたるワクチン接種の副作用への対処や行動制限など、改めて健康の大切さや日常生活の有難さを実感されたのではないのでしょうか。

このような間、果樹研究センターの運営につきましては、令和4年10月に3年ぶりとなる農林水産参観デーを何とか工夫しながら開催することができましたが、生産者の方や関係機関の皆様には、これまでの公開セミナーや農林水産参観デーの中止、施設利用や視察の制限などのご不便にご理解・ご協力をいただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今回の果研ニュース No. 41 は、①DNA 検査法を用いたカンキツの品種識別、②「愛媛果試第28号」におけるミカンキイロアザミウマの発生状況と薬剤感受性、③「甘平」の断根・堆肥混和による裂果対策、について取り上げました。海外に流出した優良品種の国内への逆輸入を防止するための取組み、近年、薬剤抵抗性の発達が問題となっているミカンキイロアザミウマの生態や防除、「甘平」の裂果軽減に向けた対策についての研究成果をご紹介しますので、一読していただければ幸いです。